

カトリック山形教会報

かすみ

4

2012.4.1

カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>

2012年2月22日 灰の水曜日説教

『イエスの愛を生きているか』

カトリック山形教会主任司祭 本間研二

司祭館の生活がいつもいそがしいわけではありません。でも時々「いそがしい、いそがしい」とか「疲れた、疲れた」と言ってしまうことがあります。「いそがしい」という言葉は使うまい、「疲れた」という言葉は使うまい、と。ただ、言葉では「いそがしい」と言わなくても、態度に出てしまうのです。

以前、鶴岡の教会にいた時のこと、その日は珍しく朝から非常にいそがしくしていました。休もうかなと思った時、玄関のブザーが鳴りました。玄関に出ましたら、明らかに浮浪者とわかる男が立っていました。長い髪、汚い服で、しょぼんと立っていました。そして「お金をくれ」と言うのです。いつもでしたら、少し会話し、500円程を渡すのですが、その日は違いました。わたしの気分がよくないのと、疲れもあって、とても冷たい態度をとってしまいました。早く帰ってほしかったので、「ちょっと待って」と言い、部屋から500円玉を持ってきて、すぐに渡したのです。お金を握らせ、わたしはドアをバタンと閉め、さっさと自分の部屋に行こうとしました。

ふと、何気なく、窓から玄関を見ましたら、浮浪者の男が、まだ立っているのです。わたしに冷たく渡された500円玉をぎゅっと握り締めて、彼はドアに背を向けて歩き出しました。帰るのかな、と思って見ていましたら、歩みが止まりました。浮浪者の男はくるっとドアの方を向いて、手の中の500円玉をまじまじと見つめると、再びぎゅっと握り締めました。そして、誰もいない玄関に向かって、深々と頭を下げたのです。わたしは「あっ」と思いました。「なんてひどいことをしてしまったのだ。きっと、せっぱつまって教会に来たのだろうに」と思いました。わたしは、自分がいそがしいから、疲れているから、早く横になりたいから、それだけの理由でニコリともしないで、冷たくドアを閉めて、追い払ったのです。

500円を渡して、冷たい態度で部屋に行こうとしたわたし。500円をじっと握り締めて、誰もいないドアに向かって深々と頭を下げていた彼。どちらが神の前で正しいでしょう。明らかです。彼の方が、神の前ではとても正しい人なのです。お金を渡したわたしが、神の前では、とるにたらないダメな男だったのです。回心とは、自分のそういうところを、変えようとする事なのかな、と思います。ただ誰かにいっぱい施しをされるとか、そういうことではなくて、もっともっと深い、根っこにある、わたしのダメなところ、わたしの冷たさ、それがもっと温かくなること。それを回心と言うのではないかな、と思

いました。

今日から四旬節が始まります。祈りと断食と施しをすることによって、回心をしなさいと、教会は言っています。回心とは「改める心」ではなくて、「回す心」と書きます。原文のギリシア語では「メタノイア」と言います。「メタノイア」をぐるっと180度回して読むと、「アイノタメ」なんですね。これはたまたまです。偶然です。でも、回心というのは、まさにそういうことではないでしょうか。日々の生活の中で、「いそがしい、いそがしい」「疲れた、疲れた」と言って、愛を忘れて生きているわたしたち。そのわたしたちが、心の向きを変えて、愛のために生きてみよう。自分のためだけではなく、ほんの少しでも誰かのために生きてみよう。それが回心の意味ではないかな、と思います。

そしてまさに四旬節とは、そのことを、勇気をもってやってみようと思うこと。それが四旬節ではないでしょうか。祈りをする事、断食すること、節制すること、それは否定されることはありません。でも、本当の回心をするためには、自分の本当の心と対面しなければなりません。冷たいわたし、ゆるせないわたし。愛せないわたし。そんな「わたし」から逃げないで、本当の自分と対面すること。そのことなしに、回心はありえません。「自分は本当にイエスの心を生きているだろうか。イエスの愛を生きているだろうか」

今日から始まる四旬節、自分の心と出会しましょう。愛せているか。ゆるせているか。受け入れているか。できていないなら、ほんの少しでも心を回して、愛せるわたしに変わろう。ゆるせるわたしに変わろう。どうしても受け入れられないあの人を、ほんの少しでも受け入れてみましょう。

そんなことをこの40日間、日々の生活の中で、やってみること。それがなければ、四旬節はただの我慢くらべとなり、真の意味はなくなります。やってみたいな、と思います。痛みます。つらいです。でも、本当の愛は、もしかしたら、つらいのかもしれない。痛むものかもしれない。「愛とは痛むもの、痛みのない愛は、ない」そのことを、この四旬節を通して、わたしたちがはっきりと悟り、そして痛みながら、今日から始まる40日間の四旬節を歩んでいきましょう。そして復活祭の日に、その心を、わたしたち一人一人が主イエスに捧げることができるよう。

2012年2月22日 灰の水曜日説教を聞いて

『主よ、神父さまのお話を通して』

イグナチオ 中村 遼

主よ。司祭さまのお話を通して、わたしに何をおっしゃりたいのですか。わたしは、あなたがわたしを愛してくれたように、人を愛していますか。いや、言わないでください。本当はわかっています…… わたしは、あなたがわたしを愛してくれたように、人を愛していないのです。あなたの愛とは、友の命を守るためならば、自分の命すら捨てる、気高い愛。あなたは、罪びとを友と呼んで下さる方。ちりの子の足を拭いてくださる方。あなたの手の傷、足の傷、わき腹の傷は、わたしに対する愛のあかし。あなたがわたしのために失った命と、流した血と、体に受けた傷で、わたしは、愛という言葉の、本当の意味を知りました。

わたしを憐れんでください。あなたの道から遠く離れているわたしを、かわいそうに思って抱きしめてください。わたしの惨めさを見てください。人からつらい仕打ちを一杯受けました。人と関わり、思い出してつらいので、もう人とは関わりたくありません。人なんか、愛したくありません。人間な

くて、大嫌いです…… でも、わたしの思いではなく、あなたの思いがなりますように。『わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい』あなたのお言葉が、この身になりますように。あなたは、わたしが憎んでいる人のためにも、死んでくださった。わたしの目で見たら狂人でも、あなたの目から見たら、かわいい子供です。わたしと同じ、神の子供です。そんな子供を、わたしは憎んでいます。わたしは悲しい。わたしはあなたの道から遠く離れようとしている。主よ。わたしをきつく抱きしめて、決して離さないでください。わたしを悪魔のたくらみから守ってください。

……こうしてあなたの腕の中になると、深い平安を感じます。あなたが愛する人ならば、わたしも愛したいと思えてきます。これはまことに不思議なわざ。あなたのなさる愛のわざ。わたしの目から、涙がこぼれる。わたしの涙は、この世の悪に対する、あなたの勝利のあかしです。



1月22日、9人目の命が、秀寿くんが洗礼の秘財も授けられた。

私の思い

ユスト 奥 孝由紀

私たち家族が洗礼を受けたのが、2011年4月23日『主の復活徹夜祭』の時。間もなく1年になります。洗礼を受け数カ月後に、妻のお腹に9人目の小さな命が宿っているのがわかりました。周りの友人や親族からは、計画性が無い、犬やネコじゃないのだから子供なんかボンボン作るなど産む事を反対されました。たとえ反対されたとしても、私には子

供の頃からの夢というか願ひがありました。

それは、私が小学4年生の頃に小児糖尿病と肝臓病を患い、小学、中学と合わせ、3年以上入院闘病生活を過ごしていた時、その生活の中で自分はいったいどの位生きられるのだろうと思い始め、自分の将来の事を考えるようになり、子供心に思った事がありました。それは、10代の内に結婚し、子供を沢山作ることでした。

今思えばずいぶんマセた考えだったかもしれませんが、その頃は本気で、たとえ自分が早く死んだとしても残された妻や子供達がさみしくないだろうと思ったからでした。その思いが現実のものとなり、私が

17歳のとき、妻と出会い、私が18歳、妻が17歳のときに結婚。月日が流れ、子供が男3人、女5人の8人が生まれ、小さかった命が1月12日に9人目4男として誕生しました。

この子には秀寿(ひでひさ)と名付け、霊名をダリオと名付けました。その秀寿も1月22日に無事洗礼を受けることができました。私は一時期潜めた糖尿病が22歳の時に高血圧症と互いに再発し、現在、糖尿病の合併症を発症し長い闘病生活を送っていますが、子供達も元気に成長し、子供の頃に夢見ていた家庭を築くことができたことを神に感謝し、家族全てが教会の一員になれたことを嬉しく思っています。



ボランティアスタッフの活動と、ミーティングと昼食のシーンも写し取れる。



仙台サポートセンター釜石ベースに使用されている釜石教会



一日の始まりのミサ。

復興への小さいお手伝い

カリタスジャパン仙台サポートセンター釜石ベース

マリア 飯島千賀子

仙台から一日一本の高速バスで釜石に着いたのは、暗くなってからだった。釜石ベースに着いてびっくり、教会の塔の上に大きな星。そこから幾筋もの光が…。「えっ!クリスマスの飾りがまだ?」ここが復興の希望の灯台、シンボルだからなのかと納得した。

次の日、活動とミーティングの間に町に出た。昨日は暗くて解らなかったが、町にはボロ雑巾のように内装が天井から垂れ下がり、鉄骨が針金のように曲がったお店、壊れた壁に赤い○や×が書かれたビル、もう住むことができないので壊す建物が沢山残っていた。瓦礫はもうなくて、コンクリートの土台だけが広がっている。数軒のお店が営業しているが、復興はまだまだと思った。港には壊れ果てたホテル、積み上げられた沢山の壊れた車、栈橋は地盤沈下で半分ほど海水に浸かっている。でも、船は入港できて、徐々に復興しているようだ。

釜石ベースの活動は、社会福祉協議会から依頼されているベースと仮設住宅で行う「ふりあ、お茶っこサロン」、パレスチナ子供の家で行われている写真洗浄、心のケア、ボランティアの食事準備などがある。

釜石教会にある釜石ベースはミサで始まる。一日のスケジュールは、起床 — 朝食 — 朝のミーティング(活動予定、注意、ボランティア修了者の感想、挨拶、開始者の自己紹

介) — 活動グループ毎のミーティング — 活動へ出発 — グループ毎で活動 — 夜のミーティング(活動報告、引き継ぎ事項、分かち合い、祈り、ボランティア修了者の感想、挨拶、開始者の自己紹介) — 夕食 — 自由時間 — 就寝。

私のボランティア体験は、「お茶っこサロン」でのお茶やコーヒーのサービスと、お話を黙ってお聴きすることだった。辛い地震の体験を、胸にしまい込んで黙ってコーヒーを飲んでいる人、数人のお母さん達は毎日サロンに集まり子供のこと、生活のことなど情報交換をしていた。仮設住宅の「お茶っこサロン」は5、6人が入るといっばいになる小さなサロンで、朝一番まだ準備が整わない時に来た男性は、午前中たわいのない話をし、肉親を亡くした女性の話を聞いていた。その男性が、また午後一番に来て、そして胸の中に詰まっていた、亡くなった息子さんのことをはき出すように話された。仮設住宅の人達にはではなく、見ず知らずの私たちに話を聴いてほしかったのだろう…。

復興はまだまだ、もし、「私たちを助けてください」「どうか私の傍らにいてください」の声が聞こえたら、是非ボランティアに勇気をもって参加してください。私達の助けが必要な人達がたくさんいます。

現地に行けなくても、被災地を思い祈ること、募金もボランティアだと思います。

山形教会で早5年 感謝!

オタワ愛徳修道女会 Sr.築沢由美栄



3月末で山形を去られる、Sr.赤坂とSr.築沢

ここ山形教会でお世話になって5年3か月経ちました。エッ、もうそんなに!という感じです。教会に入った時、何かしら、いい雰囲気を感じ、“私の教会”という気持ちになりました。百年もの歴史があるだけに、聖堂は先輩の祈りがいっぱい詰まっているのでしょう。その祈りに支えられて、信徒の親しい交わりが育まれているのだなと思いました。出会って、受け入れられ、一緒にあれをしたな、これを祈ったなと思ひ出されます。

山形教会の特徴を見つけました。それは、バザーや公和会、教会改築、被災者支援等いろいろなことで、この方向に向かって行こうとなると、一人ひとりの奉仕の仕方は様々だけど、皆で一つになって、歩んで行く姿です。うれしくて、励まされます。

お別れというのが、まだ自分の中でピンと来ていません。皆様が身近な感じがしています。離れても、信仰の友として、祈りの中でつながっていますね。東仙台修道院にもお出下さいね。



信徒総会開催

マリーベルナデッタ 工藤和子

2月26日のミサ後、2012年度の山形教会の信徒総会が出席者56名のもとに開かれました。開催に先立ち本間神父がイエス様と中風の人の話を例にとり、イエス様が癒やされる所が教会であるということに自覚して総会に臨んでくださいとの挨拶がありました。

2011年度会計報告は、東日本大震災の影響もあって大変厳しく、2012年度は更に厳しくなるようです。山形教会も高齢化が進んでいて、献金や寄付、維持費が年々減少化にあり、やり繰りが難しいのが現実で、信徒会長はそのような状況下であって何が出来るか考えながら、小さな力を集めて皆で協力しあって共同体を作っていきたいと言われました。今年度は大事業がないものの、墓地の管理や維持、予算額と決算額の差違など一見何も問題なさそうでも、多くの問題があることが分かりました。質疑応答や報告も終えて、先ずは平穏な信徒総会でした。

フォトグラフ



除雪作業 2月12日(日)

記録的な大雪で、聖堂周辺は雪の山ができました。聖堂の玄関周辺やエアコン室外機付近を中心に、除雪作業を行いました。作業後は冷えた体をアツアツの豚汁とおにぎりで温めました。



スケート教室 2月25日(土)

教会学校(育成部)のレクリエーションで落合のスケート場でスケート教室が行われました。あいにくの天気でしたが、初心者には補助道具なども利用し、楽しい時間を過ごしました。



洗礼志願式 3月4日(日)

復活祭に洗礼の秘跡を受ける、市中博さんと村川智美さんの洗礼志願式が行われました。山形教会の共同体となられるお二人が、イエス様が導かれる光の中を歩むことができるようお祈りください。